

受託部会で地域集会開催

W. Coと生協とのパートナーシップに新たな一歩



2010年度事業を推進していくため、事業推進部のもとに受託部会、ショップ部会、食部会が設置されました。その一つ受託部会では、事業の課題解決に向けて、各事業所での活動を共有したり、託児システムなどの福利厚生

を話し合ったりしています。さらに生協とのパートナーシップを高め、事業を展開する取り組みの一つとして、生協方針への理解を深めるための地域集会が各W. Coが主体になり12月に7カ所開催され、活発な意見交換がされました。

生協の立場で

私は「結」の千葉、ベイ、佐倉各 brunch の集会に出席しました。受託W. Coが自ら生活クラブの方針を学ぶ機会を持ってくれたことに感謝します。パートナーシップを作り上げる一歩になると確信しました。

私は具体的な方針の前に生活クラブの歴史の部分に力を入れて話しました。「食の安全」は生活クラブの当然のミッションと思われているけれど、誕生当初、食には衛生概念はあっても安全は重んじられていなかったこと。カネミ油症や水俣病に学んで食の安全を確立する運動を展開、ついに法制化にもつなげたことなど、お話ししました。

ワーカーズの立ち上げや地域福祉、環境の取り組みも食の安全と同様、常識を一つひとつつづがえし、新たな価値観を創造する長い歴史の成果です。

その歴史が今、大きな曲がり角にさしかかっています。『デフレの正体』(藻谷浩介・著)によると団塊の世代がいっせいに退職し、モノを買わなくなった。一方、働く

人口は今後減り続ける。これではいくらモノをつくっても売れない。

ではどうするべきか。藻谷氏によると女性の就労と経営参加を当たり前にすることだそうです。日本の生産年齢の女性のうち、働いているのは45%に過ぎません。いわゆる専業主婦が1200万人もいるのです。この人たちが働き、稼いだお金を消費に振り向けることが景気回復への確実な道であると主張しています。

ワーカーズの皆さん、どう考えますか？

集会の中での皆さんの発言によると、地域集会資料を読んで意見を出してくる組合員は非常に少ないとのことでした。皆さんから声を掛けて組合員同士として、生活クラブの運営についても、社会をどう住みやすくするかについても、しっかり議論し皆でつくっていきけるよう、力を出し合っていきましょう。

生活クラブ生協 庄 妙子専務理事

東葛エリア

東葛エリアの受託部会では、来年度活動計画案「みんなで考えよう！2011年度の生活クラブ」をW. Coの地域集会として、12月4日土曜の午後に設定し、松戸・柏両センターから22名が参加しました。配送ワーカーズとして組合員の皆さんに提案説明する立場で研修することが目的です。

「生活クラブ虹の街いなげ」開設や生活クラブ連合会での新ロゴ誕生に合わせ、拡大活動に一層の力を注ごうという計画案で、春には若い世代へ向けて初めてのテレビCMも予定されています。

新しい生活クラブへ舵をとることへの決意を感じるとともに、配送ワーカーズがこのメッセージを組合員の皆さんに伝える役割を担っていくことを改めて思いました。また班活動の事業性について検討した2012年以降のシステム変更の提案には、様々な立場からの意見が交わされました。

(企)わーかーず・あい 浜 たづ子

京葉エリア

京葉エリアでは配送ワーカーズ結(千葉branch・ベイbranch)とデポワーカーズ(W. Coかい)を対象に、3回の地域集会を開催しました。

《組合員拡大の紹介キャンペーン》については、配達時やフロアでお友達紹介を呼びかける中で『組合員自身が友人に呼びかけることを躊躇していることから、呼びかけすることが難しい』との意見が出ました。

「価格的に安売りに走っている人に、気軽に勧められない」「友人の名前を教えることにハードルがある」など、時代を反映した人間関係の変化が伺えます。同時に組合員自身が消費材が手元に届くまでの仕組みに関心がなくなっているという実態もあります。

今後、組合員をさらに増やしていくためには、個人からの紹介だけでなく、幼稚園のバザーなどに出店するなど、生活クラブを伝える場を多様に検討していく必要があるのではないかと意見が出ました。

(企)ワーカーズ・結 風間由加

下総エリア

下総エリアでは、成田デポと佐倉センターで、配送W. Co結(佐倉branch)とW. Coかい(成田デポ)のメンバーを対象に、地域集会を開催しました。来年度の活動計画案では、成田デポの2011年7月閉鎖が決まっています。とても残念ですが、成田デポの組合員さんに、個別配送や班、または他のデポの利用へスムーズに移行していただけるよう、私たちワーカーズも最後まで頑張ります。

W. Coかい(成田デポ) 寺門久与



W. Coエンディングサポート 風 設立総会 1/21

昨年6月にそれぞれの思いで葬儀事業起業講座説明会に集まり、ワーカーズ・コレクティブ、生活クラブ葬儀プラン「風の旅」、そして葬儀の現状について等の勉強会を行い、その中の有志で準備会へ移行、試行錯誤しての設立となりました。



私自身の葬儀への関心の一歩は姉の死でした。姉は3年前に亡くなり、その時の姉の装いは葬儀社の用意した白い着物でした。療養中でも身辺はとてもしっきりと整理されていましたが、死出の旅への装いには気が回らなかったのか、夫と二人の息子への申し渡しが不十分であったのか、オシャレな姉にとっては・・・な装いなのではないかと思い、義兄と小豆色の色無地の着物を選び、かけてやりました。その時は葬儀サポーターの存在も仕事も知りませんでしたが、私のサポーターとしての初仕事であったように思います。

突然訪れる死、そして葬儀の場で専門職である葬儀社と協力し、送る方に寄り添い、送られる方が納得できるであろう葬儀のやり方を探して実現していくお手伝いをしたいというのが、

「風」の願いです。思いはあっても、まるで形が見えなかった私たちですが、生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会、株式会社ゆうエージェンシー、NPOワーカーズコレクティブ千葉県連合会、各葬儀社の皆様のご指導・ご協力により徐々に具体的な「風」の姿が見えてきました。

総会当日私たちの事業に関心を持ち、働き方に注目してくださる来賓の方々にお会いし、私たちはエンディングサポート風として社会に名乗りを上げたのだと覚悟を新たにしました。まだまだ立ち上がっただけの「風」ですが、送る方、送られる方の思いに添い、過不足のないエンディングへのサポートを目指したいと思えます。

エンディングサポート風 喜島セツ

自分らしいエンディング
実現のお手伝い

風



ワーカーズコレクティブ
エンディングサポート 風
〒285-0837 佐倉市王子台 3-27-10
回転木馬 気付

リーフレットもできました